Cairdeas コージャス〈友情〉
山陰日本アイルランド協会 会報 The Bulletin of the Sanin Japan-Ireland Association
2022年2月10日発行（年1回発行）
27
2021

ケルト・アニメ「三部作」にみる自然信仰

「ケルティック・リヴァイヴァル」の芸術と共に

鶴岡真弓 Tsuruoka Mayumi

鶴岡真弓オンライン講演会
ケルト・アニメ3部作にみる自然信仰
――イェイツ兄弟の芸術と共に
2021年9月26日㊐ オンライン（Zoom）聴講
主催：山陰日本アイルランド協会　協力：チャイルド・フィルム

「人間界」は地上に積み木された、ほんの一部の秩序（オーダー）に過ぎない。科学技術が発達したと現代人がどんなに豪語しても、人間の目にすべてが映っているわけではない。

名づけえない、無数のものたちが蠢（うごめ）いているのが、この宇宙自然＝コスモスである。

それをむしろ見通しているのは鳥や虫という生きとし生けるもの目である。

アイルランドのアニメ制作集団「カートゥーン・サルーン」の描く生き物たちには、その生命への警告と祝福が、表現の魂（アニマ）と共に蠢（うごめ）いている。

「ケルト三部作」アニメの魂（アニマ）

アイルランド南部、緑なすキルケニー地方に、今や世界的に有名なアニメーション制作スタジオ「カートゥーン・サルーン」がある。トム・ムーア監督（1977年生）が1999年、ポール・ヤング、ノラ・トゥーミーと少人数のスタッフで立ち上げ、今や数百人を擁するアニメの聖地となっている。

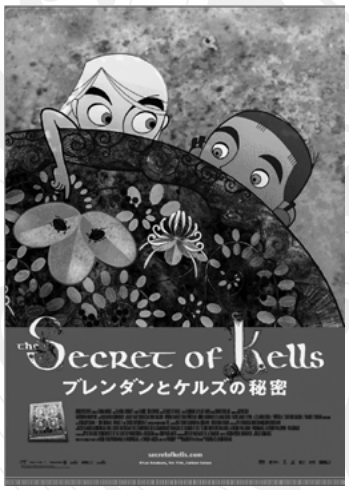

図1　『ブレンダンとケルズの秘密』ポスター
配給：チャイルド・フィルム／ミラクルヴォイス

図2　『ソング・オブ・ザ・シー　海のうた』ポスター
配給：チャイルド・フィルム／ミラクルヴォイス

世界的ヒットとなった長編アニメーション「ケルト三部作」は、このアイルランド南東部のキルケニーから生まれた。

一作目の『ブレンダンとケルズの秘密』（2009年）は、第82回アカデミー賞長編アニメ賞にノミネート（図1）。二作目『ソング・オブ・ザ・シー　海のうた』（2014年）も第87回アカデミー賞にノミネートされた（図2）。

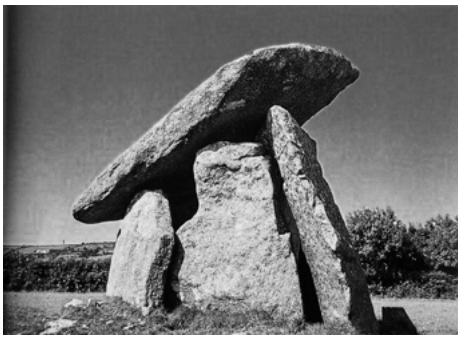

図3　「プロリーク・ドルメン」アイルランド　新石器時代
撮影：鶴岡真弓

図4　渦巻文様を帯びる狼の出現『ウルフウォーカー』より　チャイルド・フィルム配給　©WolfWalkers 2020

そしてコロナ禍の中、果敢にも完成されたのが『ウルフウォーカー』（2020年）だ。

なぜアイルランド発「ケルト三部作」のアニメーションは、世界の人々に共感を呼び起こすのか。それは不穏な現代社会の誰もが取り戻したいと願っている、「喪失から蘇るものの力」、いいかえれば、人間中心の世界ではなく、「生きとし生けるもの」が共に生きる「生命の共同体の再生」への希望が、ムーア監督たちの創造精神の基本にあるからではないだろうか。

しかしこの姿勢は百年以上前、19世紀末から20世紀前半においてアイルランドをはじめスコットランド、ウェールズ、ブルターニュなどで湧き上がったあの「ケルト復興＝ケルティック・リヴァイヴァル」の表現者たちが示した芸術の核にあるものでもあった。

アイルランド「ケルト復興」運動の中心にいたイェイツ兄弟（詩人の兄：バトラー、画家の弟：ジャック）。そしてまた同時代に日本に辿り着いたアイルランド人の血をひく小泉八雲の諸作品が問う、「死からの再生」そして「生命循環」のテーマが、現代の「ケルト三部作」アニメにまで通奏していることが浮上する。

大自然と祖霊への畏敬

ムーア監督たちが送り出した「ケルト三部作」のアニメ作品は、いずれもアイルランドの民間伝承・神話・歴史・考古を源にしているのが特徴だ。

「大自然」と「祖先／祖霊」を畏れ敬うアイリッシュ・ケルトの伝統。祖霊や自然への畏敬は、中世キリスト教時代にも近代の産業革命の只中でも消えることはなかった。

第一作の『ブレンダンとケルズの秘密』では、森と太古の祖霊を護る精霊に支えられることになる少年修道士ブレンダンがヒーローである。

今日でもアイルランドの田舎を歩けばムーア監督たちが描く異教時代の巨石遺跡が出現し、ブレンダンを助ける白い妖精アシュリンのような精霊が生き続けていると思わせられる（図3）。

第二作の『ソング・オブ・ザ・シー　海のうた』では、死者たちが回帰して、生きる私たちに「死の冬」を生き抜く力を授けてくれる、サウィン＝万霊節（ハロウィンの起源）の祭暦を背景に幼い兄妹が魔物に挑む。

そして『ウルフウォーカー』では、アングロ＝サクソン、イングランドの支配下、対立を超え、狼が駆除される危機の森で、友情を結ぶ狼少女たちが躍動する。近代の覇者大英帝国の支配によっても絶滅はしなかった、ケルトの自然崇拝（ネイチャー・ワーシップ）の不滅が描かれている。

印象的なあのシーン。夜になると魂が抜け狼に変容する、アングロ＝サクソン側だった少女ロビン。彼女も身を呈して「生きとし生けるもの」を追いやった、西洋近代の陰を逆照射し、「生きもの」への「親愛」を秘めてきた伝統社会の力を身に沁みさせる（図4）。

「三部作」の少年少女たちは、現代の大人には見えなくなった超自然的存在に助けられ、生きとし生けるものの命を守るために挑み、数奇な出来事を体験し成長していく。日本の宮崎駿を尊敬すると語るムーア監督は、ヨーロッパやアメリカの中心都市ではなく、アイルランドの森のそよぎの聴こえる制作スタジオから、この小さきものたちを世界へ送り出した。

19世紀「ケルト文芸復興」からの文脈

ところでこうした三部作の根底にあるテーマは、アイルランドを始めとする近代の「ケルト文化復興＝ケルティック・リヴァイヴァル」の文脈に照らすとき、さらに理解できる。

たとえば『ソング・オブ・ザ・シー　海のうた』のテーマは北ヨーロッパから北米にまで共有される人間と動物の交流の物語「セルキー（あざらし）伝説」に基づいている（図4）。

映画では冷戦終焉直後公開されたジョン・セイルズ監督作品『フィオナの海』（1994年、原作：ロザリー・K・フライ）も有名だ。

現代人が忘れ去った「人間と動物のつながり」への探求の物語。動物を共同体や家族の祖として大切にしてきた「トーテミズム」の伝統がテーマだ。

なかでもこのアザラシの精霊と人間の異類婚の幸福と別れはユーラシアから北米までの「北方系」諸民族の伝説に共有され、アイルラン

ド、北欧からユーラシア沿海州、日本列島そして北米までに共有されてきた根源的な神話素である。

『ソング・オブ・ザ・シー　海のうた』で女の子が失っている声は、母親であるセルキーの声なのであり、それが抑圧の呪文を破る力となる。生命再生の鍵は、コントロールに満ちた人間界ではなく、大自然や異界に秘められているのである。

こうした濃厚なケルトの動物崇拝や異界に求める安息をケルト文芸復興の旗手W. B. イェイツは綴った。「白鳥 *The White Birds*」(1892年)では「ぼくが夢見るのは無数の島々…薔薇やユリのことは忘れ…二羽の白鳥となって　波の上で漂っていよう」と詠う。平安は、神に選ばれたと豪語する人間界にではなく、実はその下位におかれたかにみえる野生の自然界にあると伝えている。

小泉八雲は『鳥女 *The Bird Wife*』(1884年)を書いた。猟師が若い女性と出会い子宝にも恵まれるが、ある日森の生き物を乱獲し、驚き悲しんだ女性(母)は子に羽を付け、共に空に飛び去ってしまったという物語である。

これらの動物への畏敬は、伝統の「異類婚」の物語に籠められている。そして人間と動物(自然)との悲しい別れが、実は「消滅」ではなく「再生」の物語であることを教えている。

人間が、人間ではない「他者」である動物＝精霊たちと出会うことができたとき、真の生命の厳粛さを知り、それへの畏敬を回復することができるという、伝統社会の叡知がそこに秘められているからである。

ケルトから普遍の「生命循環」へ

ケルトのアザラシの精セルキーも日本の「鶴の恩返し」や、少女が馬と共に天に昇る「オシラサマ」の伝説も、イェイツの「白鳥」も、八雲の「鳥女」も、「自然と人間の交流」を記憶するそれぞれの「私たちの物語」として(私の造語でいえば広大な)「ユーロ＝アジア世界」を繋いでいる。

人間と他者、あらゆるものの対立や敵対ではなく、「ケルト渦巻」が次々に異質なもの同士を巻き込んで第三の融合の項を生んでいくように、世界が「生命循環」していく願いが古い物語に籠められてきた。

その「循環」の思想は2000年以上の歴史をもつケルトの自然観を反映したハロウィンから始まる「暦」にも現れている(図5)。

図5　「ケルトの暦」『ケルト再生の思想』より
イラスト：鶴岡真弓

自然崇拝の神話や民俗の伝統において、「西の極みのケルト文明」は地理上の偶然以上に「東の極みの日本列島文明」と合わせ鏡で向き合っていると思える。ラフカディオ・ハーン、小泉八雲は、そのパースペクティヴを自らの身をもって体現した表現者であり移動者であった。またそれを西の極みから発信しているのがアイルランド発のアニメ芸術であるだろう。

それらは歴史の荒波を越えて、人々の心の古層に生きてきた「生命循環」への祈りの根源を炙り出すだろう。そしてそれは今困難の中にある私たち人類の「再生」のための知と技への大いなる標(しるべ)となるにちがいない。

図版出典

◇ カートゥーン・サルーン「ケルト三部作」アニメポスター等　©WolfWalkers 2020

参考文献

◇ 小泉凡『民俗学者 小泉八雲』(恒文社)
◇ 片山廣子、松村みね子『灯火節』(解説：鶴岡真弓／月曜社)
◇ 鶴岡真弓、松村一男『図説ケルトの歴史』(河出書房新社)
◇ 鶴岡真弓『ケルト 再生の思想：ハロウィンからの生命循環』(ちくま新書)

つるおか・まゆみ……多摩美術大学・芸術人類学研究所所長、大学美術館館長。早稲田大学大学院修了、ダブリン大学留学。専門はケルト芸術文化、およびユーロ＝アジアの生命表象交流史。[主著・主訳書]◇『ケルト再生の思想：ハロウィンからの生命循環』(ちくま新書)◇『ケルト装飾的思考』(ちくま学芸文庫)◇『芸術人類学講義』(編著／ちくま新書)◇『装飾する魂』(平凡社)◇『対談集：ケルトの魂』(平凡社)◇『ケルトの歴史』(共著／河出書房新社)◇『ケルトの想像力』(青土社)◇『阿修羅のジュエリー』(イーストプレス)◇セリグマン『装飾文字の世界』(三省堂)◇ミーハン『ケルズの書』(創元社、岩波書店)◇ディレイニー『ケルトの神話・伝説』(創元社)◇マイヤー『ケルト事典』(監修／創元社)……ほか多数

講演会チラシ

Tsuruoka Mayumi

「Duo Toyota オータムコンサート in Matsue」で演奏する豊田耕三さん(左)と豊田まりさん

人と土地と旅

豊田耕三

Duo Toyota オータムコンサート in Matsue
2021年10月10日㊐ 巨人のシチューハウス松江店(島根県松江市)
主催:山陰日本アイルランド協会　協力:巨人のシチューハウス

神々の国の首都への誘い――旧居ニテ八雲ヲ想フ
アイリッシュ・フルート & ギターコンサート
2021年10月9日㊏ 小泉八雲旧居(島根県松江市)
主催:小泉八雲記念館　共催:山陰日本アイルランド協会

1 ラフカディオ・ハーンとツアーの魅力

正直なことを言えば、ラフカディオ・ハーンについては、彼の住んでいたダブリンの家のゲストハウスに泊まったり、『怪談』を読んだりはしていたものの、その人となりについてはざっくりとしか知りませんでした。そのことに気付いたのは、小泉八雲旧居で演奏する当日の昼間、記念館の展示で初めて彼の生涯を辿った時でした。アイルランドルーツ以外のことはあまり印象に残っておらず、“とりとめのない不思議な人”というイメージを持っていましたが、展示をしっかり見てもやはり彼は“とりとめのない不思議な人”でした(笑)。ルーツも多国籍、住んだところも何ヵ国にも及び、職業もいくつあったのか、年表を読んでいてもさっぱり人物像が浮かび上がらない。一体どういう人なのかと首を傾げましたが、ただ一つ、「妻のセツに、地元に伝わる民話を話して聞かせてくれるようしきりに頼んだ」という趣旨の文章を読んだ時に、ああ、それならわかると腑に落ちました。

自分にも同じような興味を持つジャンルがあります。それは“祭り”。自分自身、千葉県船橋市の千年以上続く二宮神社という神社の神楽囃子連に所属し、下総三山の七年祭りと呼ばれる7年に一度の巨大な祭りを中心に回っている奇妙な町に暮らしていますが、この祭りと町、あるいは村の仕組みが実に不思議。奇妙な風習、不可解なしき

写真:小倉佳代子(4-6ページ)

たりが山のようにあります。うちは平成元年からの新参者ですが（50年位暮らしていても1代目だと新参者扱いです）、代々住む屋号持ちの氏子の家系の人達のキャラクターには、この神社や祭りの影響が色濃く出ているのは間違いありません。

自分の育った町でありながら半分アウトサイダーである自分にとって、この町の風習は興味が尽きなかったのですが、その内よその土地にも引けを取らない位変な祭りがたくさんあることに気付き始めました。というよりむしろ日本中変な祭りだらけと言っても良いかもしれません。そして、その祭りの一つ一つにその土地の人達のキャラクターが色濃く出ている、あるいは逆に祭りがその土地の人々のキャラクターに強く影響している、そうやって色んな村ができあがっていると気付いてから、よその土地の祭りを見るのがとても好きになりました。その祭りを通してその土地の人々の思考の深いところを伺い知ることができる、そんな気がするからです。社会人類学者のレヴィ・ストロースも神話を研究していましたが、ハーン氏が民話に興味を示すのも、自分が祭りに興味を示すのも、それを通して土地と人を知りたい、そういう思いが根底にあるのでしょう。

演奏のツアーも人と土地を知る良い機会になります。観光旅行で訪れて観光スポットを梯子するのもそれはそれで魅力的ですが、演奏のツアーで訪れて、その土地の人達とコンサートやライヴを一緒につくり、その土地の人達に向けて演奏する方が、その土地の方々の人となりが知れて面白い。そして、可能であればその土地に住む人達に近いところに泊まり、近い目線で街を眺め、ここに暮らすということはどういうことかと思いを巡らすのがとても好きなのです。それは前述の祭りの縛りもあって簡単には引っ越すことができなくなった反動でもあります。遠く離れた松江という国に暮らす人達は、自分の目には何とも魅力的に映るのです。

2 松江という外国での演奏

今回の松江行きは、コロナ禍以降久々のツアーの一つで、緊急事態宣言が解けたばかり。首都圏ではまだ飲食店に制限がかかっていた時期だったので、飛行機に乗って降り立ったら違うルールという不思議な状況になりました。日が暮れてからホテルに到着し、まだお店がやっているか不安になりながら遅めの夕食を食べに街に繰り出すと、あちらの店もこちらの店もまだまだ営業している。しかもお酒が飲める。お店に入ってからもずっとソワソワしてしまって、何だか別の国に来ているような気分。

翌日訪れた最初の演奏会場、小泉八雲旧居は、美しい日本家屋。ミニマルで落ち着く、時間を忘れるような空間。襖もガラス戸も開け放たれ、庭からは秋の虫の音が響いていました。アイリッシュ音楽を演奏する空間としてはかなり独特です。音楽というのは建築物や気候、空間の鳴り響きと共に発展するものなので、アイリッシュ音楽はパブの狭いところで良く鳴り響くし、日本の伝統音楽は湿度の高い気候と、気密性が低く響きの少ない日本家屋で驚く程音が通るようにできています。演奏法も楽器もそれに併せて選ばれてきたのです。その組み合わせを敢えて変えるというのはある種の冒険になります。実際のところ、今回の旧居での演奏もダンスチューンに関しては、主催の小泉さんご夫妻から「音はよく通っていますよ」と言われてはいたものの、自分達の音を聴き取りづらく、少し不安を抱えながらの演奏

Duo Toyota

小泉八雲旧居での「アイリッシュ・フルート & ギターコンサート」。

となりました。ところが、シャン・ノースと呼ばれる古いスローエアを吹いた時だけは全く別もの。演奏した「オライリーの墓」という曲は暗くも明るくもなく、どちらかと言えば神秘的な雰囲気を持つ曲で、それを自分がアイリッシュ・フルートで吹くと尺八や篠笛を彷彿とさせるとよく言われるのですが、それがこの日本家屋に実に合う。そればかりか、フレーズとフレーズの間の音の無い部分に虫の音が入り、吹いてて何かが降りてきてるような感じさえする特別なコラボレーションとなりました。小泉八雲旧居という素晴らしい箱が後押しをしてくれて実現した、過去例のない体験でした。

2日目の演奏場所は東京の戸越銀座でもお世話になった巨人のシチューハウスの松江店。オーナーのアランさん自ら店を切り盛りし、料理の腕を振るうその新しいお店は、川沿いの素敵な場所にあり、日本国内では屈指の大きさを誇る程の広々とした店内。しかも、長身のアランに似つかわしく天井が高くて開放的な上に、テラスまである素晴らしいパブです。そして、何より、制限なくお酒が飲めるアイリッシュ・パブで、満席のお客さんの前で演奏というのがどれだけ久し振りなことか！　もうそれだけで大興奮でした。

ミュージシャンの仕事というのは、普通の仕事よりはアスリートに近いようなところがあって、80点から上をどこまで上げられるかというような感じになっていくのですが、80点から上はお客さんの後押しがものすごく重要になってきます。強力な後押しがあるとプラス50点位の上乗せがあることさえあり、お客さんのパワーでトータル120点すら狙える、そんな部分があります。今回の巨人のシチューハウスでのライヴでは久々にその後押しを存分に受けることができ、演奏していて最高に幸せでした。自分がアイリッシュ音楽を演奏する活力の原点は、こういう場にあると改めて感じました。

3 箱、土地、人の持つ力

アイリッシュ音楽は、ライヴにしてもセッションにしても、割とどんな環境でも気軽に演奏できるところが魅力の一つですが、実は土地、箱、そして、人の力の大きさは絶大で、無視することができません。どんなに良い演奏をしてもこの中のどれか一つでも欠けると一気にパワーを失ってしまうのです。今回は、松江という文化と歴史が豊かな地に、小泉八雲旧居、巨人のシチューハウスという2つの素晴らしい箱、そして、そこに小泉凡さん・祥子さんご夫妻、アランさんご夫妻の強烈な音楽愛に惹かれて多くのお客様が集まるという申し分の無い状況で演奏させて頂きました。ここまで揃ってしまうとこの先どれだけ技術が進歩してスペックが上がったとしてもオンラインの演奏では生

巨人のシチューハウス松江店での「Duo Toyota オータムコンサート in Matsue」。

には勝てないだろうなとしみじみ思いました。このライヴの翌週から巨人のシチューハウスではアイリッシュ音楽のセッションが始まるとのことで、演奏される地元の方々は少しばかり不安そうな表情を浮かべておられましたが、きっと良いセッションが続いていくことでしょう。いつの日か参加したいものです。

新しい街は新しい街で魅力があって、風通しが良く、他所からの人を喜んで受け入れ、これから新しい文化がつくられていく余地があり、その活気があります。一方、古い街は、人のつながりが強く、歴史の趣や深みがありますが、その人のつながりがしがらみとして作用し、閉鎖的・保守的になることもあります。しかし、古くから人が集まるところは多くの場合、地盤が安定し、災害が少なく、土地そのもののパワーが強い。ここだけは新しい街は真似することができません。一番面白いのは古い街が新しい人や文化を受け入れて、古いものと新しいものが混在するところ。こういうところは日々ワクワクするような雰囲気があります。

松江という土地は古来より神々が集うとされる長い歴史があり、文化があります。お堀に面した異常なくらい細長い建物は、当時間口の大きさによって税金が決められていたために、税金対策としてこの形になったというお堀巡りの船頭さんの軽やかな説明を聞いて、驚きと共にそのバックに数百年の歴史を思うことができる、そんな素敵な街。そこにアイルランド人のアランさんがかつてのハーン氏のようにやってきて、新しい風を吹き込み、松江で長くアイリッシュ音楽を楽しんできた地元の人達がそこでセッションをする。こんな楽しい状況はそうそう無いでしょう。羨ましい気持ちいっぱいで松江からの帰路につきました。

コンサートチラシ

Duo Toyota……豊田耕三（アイリッシュ・フルート、ティン・ホイッスル）、豊田まり（ボーカル、ギター）の夫婦デュオ。豊田耕三は本場アイルランドの伝統音楽のコンペティションで入賞経歴を持つ一方で、多数のレコーディングに参加し、自身のバンドではオリジナル曲も書きながら新しい音楽をつくる幅の広い活動を展開。豊田まりはポピュラー音楽を中心にカントリー、演歌、民謡までを高い歌唱力で幅広く歌い上げ、ヨガの世界大会でも生演奏を務める。アイリッシュとカントリー、それぞれお互いの得意ジャンルに踏み込む形でデュオを結成し、2019年よりじわじわ活動開始。千葉県船橋市在住。
とよた・こうぞう……linktr.ee/ozoktoyota

予告

Irish Festival in Matsue

アイリッシュ・フェスティバル in Matsue 2022

3.13㊐

島根県 **松江市**

カラコロエリア

ここのところ、新型コロナウイルスが再び猛威を振るい始めました。アイリッシュ・フェスティバル in Matsueは、今年も陸上パレードの中止を余儀なくされましたが、規模を縮小して、アイルランドの緑のお祭りを楽しんでいただけるよう企画中です。
感染状況により内容を変更する場合がありますので、ウェブサイト・SNSで最新情報をご確認ください。

グリーン・ライトアップ

- ☘松江城……3.11㊎—13㊐
- ☘カラコロ工房……3.1㊋—21㊊
- ☘TSKさんいん中央テレビ……3.11㊎—13㊐(予定)

ミニ水上パレード＆緑の遊覧船

3.13㊐ 松江堀川遊覧船(大手前乗船場—カラコロ広場)

- ☘ミニ水上パレード(PRパレード)……11:00(雨天中止)
- ☘緑の遊覧船……終日運航

アイルランドにちなんだ装飾の遊覧船を運航します

アイリッシュ・イベント

3.13㊐11:00

カラコロ工房、TONOMACHI 63、カラコロ広場

- ●アイルランド音楽演奏
- ●セント・パトリックとレプラコーンがやってくる！
- ●巨人のシチューハウスほか屋台

主催……
アイリッシュ・フェスティバル in Matsue 実行委員会、松江市

お問合わせ……
アイリッシュ・フェスティバル in Matsue
実行委員会(松江市国際交流会館)
TEL: 0852-31-8345
FAX: 0852-31-0321
E-MAIL: m.koryu@web-sanin.co.jp
◆
山陰日本アイルランド協会
E-MAIL: info@sanin-japan-ireland.org

URL……
sanin-japan-ireland.org
(山陰日本アイルランド協会)

SNS……
@irishfesmatsue
#irishfesmatsue

オフィシャルTシャツ

~~会員価格 1,600円(定価2,000円)~~
→会員価格 1,200円(定価1,800円)

ご注文・サイズ詳細は、山陰日本アイルランド協会ウェブサイトで
sanin-japan-ireland.org
E-MAIL: info@sanin-japan-ireland.org

2021年の活動

会報「コージャス」第26号 発行
2/25㊍

アイリッシュ・ウィーク in Matsue 2021
3/13㊏—21㊐　島根県松江市
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年のアイリッシュ・フェスティバル in Matsueの内容変更。
●**グリーンライトアップ**(グローバル・グリーニング参加)
3/12㊎—14㊐　松江城
3/1㊊—21㊐　カラコロ工房
3/14㊐—17㊌　TSKさんいん中央テレビ
●**緑の遊覧船**
3/13㊏—21㊐　松江堀川遊覧船
●**ヘルンさんのふるさとアイルランド子ども展**
2/28㊐—3/27㊏　小泉八雲記念館
主催:アイリッシュ・フェスティバル in Matsue 実行委員会、松江市

2021年度総会
5月　書面開催(新型コロナウイルス感染拡大防止のため)
会員に返信用はがきにて議案についての回答を求めた結果、過半数以上の承認を得る。

鶴岡真弓オンライン講演会「ケルト・アニメ3部作にみる自然信仰——イェイツ兄弟の芸術と共に」 主催
9/26㊐ 14:00-16:00　オンライン(Zoom)聴講
講師:鶴岡真弓(多摩美術大学・芸術人類学研究所所長、大学美術館館長)
参加無料　参加者:約230名
協力:チャイルド・フィルム
☞ 関連記事 1ページ

講演会のスクリーンショット

Duo Toyota コンサート
出演:Duo Toyota(豊田耕三、豊田まり)
● **Duo Toyota オータムコンサート in Matsue** 主催
10/10㊐ 18:00
巨人のシチューハウス松江店(島根県松江市)
参加費:3,500円(ワンドリンク付き)　参加者:28名
協力:巨人のシチューハウス

●**神々の国の首都への誘い——旧居ニテ八雲ヲ想フ アイリッシュ・フルート ＆ ギターコンサート** 共催
10/9㊏ 18:30、19:30
小泉八雲旧居(島根県松江市)
参加無料　参加者:各回12名
主催:小泉八雲記念館
☞ 関連記事 4ページ

定期講座
新型コロナウイルスの感染状況によって変更が生じますので、参加ご希望の方は事務局(info@sanin-japan-ireland.org)にお問い合わせください。
●**アイルランド文学読書会**
休止中(2020年4月より)
●**アイルランド音楽練習会**
木曜日
オンラインまたは会場(松江市国際交流会館ほか)
[セッション]
第3木曜日(9月より)／現在は休止中
巨人のシチューハウス松江店(島根県松江市)

今後の予定

会報「コージャス」第27号 発行
2/10㊍

アイリッシュ・フェスティバル in Matsue 2022
3/13㊐　島根県松江市
主催:アイリッシュ・フェスティバル in Matsue 実行委員会、松江市
☞ 関連記事 7ページ

新役員からのごあいさつ

会長
出口顯

この度酒井先生の後を引き継ぎ、山陰日本アイルランド協会会長に就任いたしました。

アイルランドというとまず思い出すのは、高校生の時によく見たアイルランド系アメリカ人の映画監督ジョン・フォードの作品です。そこに登場する人物は豪放磊落で呑兵衛で情に厚い人たちでした。私が初めてアイルランドに行ったのは2010年の12月です。生殖医療や養子縁組の調査のための訪問でしたが、その時お目にかかった医師・大学教授・社会福祉士の方々はみな気さくでこちらを大変歓迎して下さいました。ジョン・フォードの映画さながらの人たちだと思ったことを今でも覚えています。またその時は珍しくダブリンに雪が積もりました。ギネスのビール工場の最上階にあるビアホールで雪景色を見ながら飲んだギネスの味は格別でした。

今コロナ禍で海外との対面の交流が難しく予断を許しません。また当協会の会員も高齢化してきており、会の活動の進め方も考える時機に来ているかもしれません。しかし鶴岡真弓先生のオンライン講演会が盛会だったようにまだまだ企画を開拓できる余地はあるようにも思います。会員の皆様にはいろいろご協力を賜ることになるとは思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

でぐち・あきら……山陰日本アイルランド協会会長、島根大学法文学部教授。

副会長
鴨井八郎

この度、山陰日本アイルランド協会の副会長に就任致しました鴨井です。

多くの会員の皆様は、その歴史や自然、音楽や文学といった側面からアイルランドへの憧れや興味を持たれたのではないでしょうか。

私がアイルランドに興味を持つきっかけとなりましたのは、RWC 1991[1]大会の対日本戦を観てからです。当時、私たちラグビー関係者の憧れであった日本代表がなすすべも無く負けた試合内容に、茫然自失となりました。またこの大会に於いてオーストラリアをホームグラウンド[2]に迎えた準々決勝戦は、いまだに語り継がれる伝説の試合となりました。

インゴール裏まで詰め込まれた観客の前で繰り広げられた攻防は、試合終了間際に世界中のアイルランドファン達を歓喜から失望へ、歓声をため息に変えました[3]。

思い返せば、この瞬間からアイルランド的アンチクライマックスに惹きつけられたのかもしれません。

その後、ご縁あって山陰日本アイルランド協会に参加させて頂いております。

ただ、昨今の世情もあり活動環境が厳しいですが、出来る事を模索しながら出口会長を始め、協会運営をサポート出来ればと願っております。

[1] Rugby World Cup 1991。第二回のRWCは、初めて北半球で開催されました。また、プロ化前の最後のアマチュア大会となりました。
[2] 旧ランズダウンロードスタジアム（現アビバスタジアム）。
[3] YouTubeにて「RWC1991 Ireland vs Australia」又は「Gordon Hamilton Try」で検索してみて下さい。感動します。

かもい・はちろう……山陰日本アイルランド協会副会長。

役員交代のお知らせ

令和3年度総会（2021年5月、書面開催）で、次の役員交代が承認されました。

- ●会長　［前］酒井康宏→［新］出口顯
- ●副会長　［前］出口顯→［新］鴨井八郎
- ●顧問　［新］酒井康宏

編集後記

玉稿を賜りましたみなさまに厚く御礼申し上げます。ほぼ100年前、1918年秋から日本でも流行したスペイン風邪。どうやら1921年初夏で終息を見たようで、A型インフルエンザだと判明したのは、アラスカの永久凍土から埋葬遺体のDNA抽出に成功した1997年のこと。残念ながら昨年に続き、今年度もソーシャル・ディスタンスの続く一年となりました。今後の歴史年表にこの2年間がどう記載されるかがちょっと楽しみです。（H.T）

山陰日本アイルランド協会
SANIN JAPAN-IRELAND ASSOCIATION
事務局 〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2 島根県立大学松江キャンパス 小泉八雲研究室
E-mail: info@sanin-japan-ireland.org　●ご連絡はメールでお願いします。
www.sanin-japan-ireland.org　@sanin.japan.ireland

編集担当：建岡浩子　デザイン：石川陽春